

峨眉山人の歌（李白）

峨眉山人半輪の秋

影は平羌江水に入つて流る

夜清溪を発して三峽に向う

君を思えども見えぬ渝州に下る

峨眉山人半輪秋 影入平羌江水流
夜發清溪向三峽 思君不見下渝州

解説 夜、清溪を出発して三峽に向かう舟の中で、
峨眉山上の月を思つて歌つた詩。

語釈 ※峨眉山人 四川省峨眉県の西南にある名山。

※半輪 半月、片割れ月。 ※影 月光。 *平羌江 四川省雅安県の北から流れ、大渡河と合流するところ。青衣江ともいう。 ※清溪 四川省漢源県にある。 ※三峽 峽はふたつの山にはさまれた急流をいう。 ※君 月をさす。 一説に峨眉は蛾眉（美人のこと）に通ずるところから、愛人をさすともいい、また、友人をさすともいう。 ※渝州 今の重慶。

通釈 峨眉山に片割れ月がかかる秋の夜。 月光は平羌江の水に映り、きらきらと輝いている。 私は夜、舟で清溪を出発して三峽に向かった。 途中、月を見たいと思いつつも山にさえぎられて見ることができず、舟は渝州へと下つてゆく。